

[特集] 2社体制による感染対策清掃の質向上への取り組み



今回は、千葉県船橋市にある船橋二和病院・ふたわ診療所をお訪ねしました。こちらの病院では、2社の清掃受託事業者が契約し、とても評判がよいと伺いました。いったいどのような点がよいのか、何がよくなったのか等々、座談会形式でいろいろとお話を伺ってみました。



厚生労働省指定基幹型臨床研修病院

船橋二和病院



〒 274-0805

船橋市二和東 5-1-1

代表番号 :047-448-7111

FAX:047-447-8380

ふたわ診療所

電話番号 :047-448-7660

<https://www.futawa-hp.jp>

清掃事業者2社で切磋琢磨。 清掃水準もレベルアップ



船橋二和病院 総看護師長
宮下智枝さん



船橋二和病院 副総看護師長
感染管理認定看護師
大山由紀子さん

— まず、大山さん、清掃を2社体制にした経緯や目的を教えてください

大山:私は、保健師をしていました2013年当時、36名のVRE(バンコマイシン耐性腸内細菌科細菌)のアウトブレイクを経験しました。千葉県内でも初めての事例で、保健所も含めて大変なことになりました。このときは患者環境のベッドサイドの清拭を徹底したり、手指衛生を徹底したりして収束することができました。そのとき、アウトブレイクが起きると、職員の健康も維持できなくなり、作業もまわらなくなるので、安全で健康な環境を護ることはとても大切なことなんだとあらためて感じました。そこで、職員の安全対策や健康維持を目的に感染管理認定看護師になることを決意しました。

認定課程の実習先の病院では2社体制で清掃をしていました。手順書や手順について、2社が切磋琢磨しながら水準を向上させていくシステムにとっても共感し、いつかこのシステムを導入したいと思ったのです。

数年前、とあるきっかけで都内の大学病院本院の清掃を見学する機会をいただきました。そこで、絶賛されていた清掃業者がリジョイスカンパニーでした。

あらためて当院でも2社体制を実現したいと思い、事務と経営層と交渉を重ね、ようやく昨年導入することができたのです。

— 大変な経験をされたことがきっかけだったわけですね。既存事業者であるワーカーズさんはいかがでしたか。

杉本:私たちワーカーズは、企業ではなく組合組織です。こちらの病院との契約は長いので、長期間雇用している職員が多く、年齢層が高く、経験面では自己流の清掃が行われていました。そんなわけで、最初に2社体制の話聞いたときはびっくりしました。

でも、契約前の1日定期清掃デモンストレーションを見学し、感染対策を考慮した清掃とは一体どんなものなのかを目の当たりにし、私たちとしても、時代に合わせた清掃に考え方を切り替えてい

かなければならないことに気がつき、契約形態の変更の意味が理解できました。

契約エリアは完全に分けられてはいますが、リジョイスカンパニーさんの手順をまねすることができますし、道具や洗剤もまったく異なりますので、とても参考になりました。

今までの清掃と感染対策をもっと深めていききっかけになりましたので、手順や道具だけでなく、考え方も変えるきっかけをつくってもらったわけです。

そういう意味でも2社体制は、私たちにとってもとてもよかったと思っています。

中島:私たちリジョイスカンパニーとしても、2社で競うことになりまますので刺激を受け、緊張感をもって作業ができています。一方で、現場レベルでは、相互に密に連絡をとりながら連携して作業を進めることもできとてもよかったと思っています。

さらに、病院の宮下総師長や施設課長、大山さんたちと、清掃の定例会を開催して、改善すべき箇所や改善方法などについても情報共有ができています。



情報共有に欠かせない、清掃の定例会。

病院と2社の3者間で、 コミュニケーションも良好

宮下:ここまで話があった通り、いろいろところで2社体制のメリットがあると感じています。病院側とのコミュニケーションのみならず、2社の間のコミュニケーションもよくとれています。そういう意味でも今回の2社体制のシステムはとてもよかったと思っています。

— ありがとうございます。より具体的なエピソードなどお聞かせいただけますか

大山:以前は、清掃カートを置く場所がなかったので、道具を仕分けるのに袋を活用してもらっていました。その後、2社体制となり、



配置された清掃カート

工夫しながらカート配置することができるようになりました。病院としても意識が変わってきたわけです。

例えばモップの管理ですが、以前は場所が確保できず、清掃スタッフの休憩室に干してもらっていました。臭いもひどく、職場環境としては問題でした。しかし、耐性菌対策としての清掃を事務層も理解してくれて、現在は乾燥機や高温洗濯機（80℃10分）できちんとした

管理ができてきたのでよかったです。また、当時はモップを手で触っていたので、針刺し事故や手を介した環境からの感染のリスクがありました。わかりやすい勉強会を続ける中で、針刺し事故や接触感染対策の意識づけ、そして患者エリアに入る前の手指衛生も定着してきました。今では、洗い忘れた他のスタッフの手指衛生が気になるくらいになってきましたよ。

中島: スタッフ教育のお話がありました。大山さんをお願いして院内で定期的に勉強会を開催してもらっています。さらに、スタッフの継続教育方法として、PPEの着脱、手指衛生、トイレ清掃、病室内清掃などのオリジナル動画をつくって視聴しています。

これは、お昼休みに食事しながら、あるいは定例会の際や勉強会の際に、実際の手順をやってみて、動画で復習するといった形で利用しています。弊社では新規採用時や面接時にも活用しています。「あなた方はこうした作業をこれからするんですよ」ということで理解も深まるメリットがあり、「思っていたのと違って」という離職者を減らす点でも効果的です。



定期的に行われる勉強会の様子

さらに地域の皆さんの期待に応えられる病院へ

— そうですか。動画を使った現場教育までできるようになり、以前とは大きくよい方向に変わってきたんですね。現場の清掃管理者としてはいかがですか



(株) リジョイスカンパニー
鹿野さん

鹿野: 管理者としては現場に入って目を配ることがとても大切で、細かいところまでいかに目を配れるかを指導しながら、全体としての質向上を目指しています。建物が古くても清掃が行き届いていると、傷みも防げますし、患者さんも同じような感想をもっていると思います。

笑顔で明るく清潔なスタッフが、気持ちよく清掃作業をしている姿が続けられるように、日々努力を重ねています。

杉本: この病院は地域の住民が守っている病院ですので、これからもこの地域住民の期待に応えていきたいと思っています。日々改善を絶やさず、邁進していきたいと思っています。

— これからの課題について教えてください

大山: やはり耐性菌対策としての清掃の質向上がとても大切です。そういう意味でも、自動洗浄付きの便座清掃対策が目の前の課題ですね。そして、清掃がマニュアル通りにできているか、PDCAをまわす仕組みづくりがこれからの課題だと思っています。

宮下: 質を落とさないように維持していくことがとても大切です。人は、少し慣れてくるとすぐに手を抜いたり忘れたりするので、継続した啓発活動や教育がとても大切です。

毎回、師長会で清掃の進捗率を共有することで、病棟の職員がとも協力になります。そのように計画を提示して計画通りに実行しているマネジメントがとても重要だと思っています。

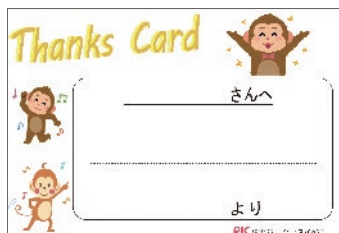
— これからもよい関係性の中で、患者さんの笑顔をサポートできる清掃でありたいですね。どうもありがとうございました



前列左から、船橋二和病院の大山副看護師長、宮下総看護師長、ワーカーズコープちばの杉本理事長。後列左から、リジョイスカンパニーの藤田さん、鹿野さん、中島さん、ワーカーズコープちばの小笠原さん。

[リジョイスカンパニー通信]

- サンクスカード（ありがとう）キャンペーンの取り組み -



回で3年目を迎えました。

少し体裁をつけて言うならば、リジョイスカンパニーで働く私たちが「それぞれの個性と人の和」という事を、お互いに少しでも考えることが出来ればとの思いから、帝京大学溝口病院でスタートしました。

表彰方法は簡単明瞭で「褒められた場合20点、褒めた本人にも10点を配点」。合計点が高い方を「金賞・銀賞・サンクス賞」として表彰するというものです。

スタートして2年目のサンクスカードキャンペーンの時に溝口病院の管財課職員の方とその事が話題になり、談笑するなか「是非Aさんに管財課からサンクスカードを1枚差し上げてください」という言葉をいただき、定着の予感に、とてもうれしく思ったことがありました。聖路加国際病院での取り

事業所で働く仲間が、「もっとより良い人間関係を作ることで働きやすい職場づくりを目指そう!」と始まったサンクスカードキャンペーンも今

組みも、最初は様子を見つつ、徐々に相手を褒めることに快感を覚えた方も多く、最終的に金賞1名、銀賞2名、サンクス賞17名の方々を表彰することが出来ました。

“大海も一滴の水から”というように、今は目立たない小さな運動ですが、その小さなことを継続することが、新たな未来への一歩につながると考えます。



左から今村さん、大貫さん、諏訪さん

聖路加国際病院 永木泰造

編集後記 From Editor

2社体制のメリットとは双方が相手を鏡のように捉え共に改善していくところです。

常に情報共有を行い高め合うため正の連鎖の働きで、病院の衛生環境の向上、更には各社より一層のスキルの向上に繋がっています。

今回の取材を通してこの状態を継続していくことがとても大切だと改めて感じております。

特に感染対策では大山副総師長とも密に連携、ご指導を仰ぎながら業務を遂行し、その事柄を後進の教育にも反映させ安定的な品質を提供していかなければなりません。

一日一善(一日一洗い)ではないですが、日々課題を持ちながら、一

つずつ確実にクリアするために成長することも追求していきます。

これからも船橋二和病院またワーカーズコープとの連携を欠かさず、縁の下の力持ちとして誇りを持ち勤めに邁進していく所存です。互いに助け合いの中で地域に根付き、また皆様の期待に応えられるような環境づくりを目指して参ります。

最後に日々こつこつと業務に励んで下さっているスタッフの皆様に感謝申し上げます。

株式会社リジョイスカンパニー
中島 勇

全ては、お客様へ快適な環境を届けるために。

for the Client for the Society for the Ourselves

リジョイスカンパニーが
医療機関の様々な業務をサポートします。